

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の申請主体の名称

神奈川県厚木市

2 地域再生計画の名称

自然学習拠点整備による再生計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

始期 平成16年度

期間 約10年

4 地域再生計画の意義及び目標

【意義】

(1) 地域の概要

本市は、丹沢大山国定公園と富士山麓より源を発する清流・相模川、丹沢山麓より流れ出る中津川、小鮎川等有数の河川に恵まれ、その流域には市域の20%（18.8km²）に及ぶ豊かな里山が存在し、多くの動植物が生息している。その数は、分かっているだけでも動物が2,500種類、植物が1,000種類を超える。

新宿から小田急線や東名高速道路で南へ向かう時、西側の車窓から最初に見えてくる頂が、丹沢大山国定公園の大山山頂（1,251.7m）である。市内の里山からこの大山山頂へと続く“やまなみ”は、新宿から特急で45分、高速道路利用で30分という、都心から50km圏にあり、「ほんもの」の自然を手軽に体験できる首都近郊のエコロジーエリアとしての大きなポテンシャルを秘めている。このエコロジーエリアは、神奈川県内で絶滅が危惧されている水辺の動植物の最後の生息地となっている。

身近なところで豊かな自然にふれあうことのできる本市では、市民を始め、一部の企業や勤労市民・学生による少数の環境ボランティアによる活動が展開されるなど、自然に対する関心が非常に高い。

市の西部に位置する本地区は、エコロジーエリアの中心に位置し、地区内には宿泊施設として、温泉施設（施設数10、室数184、コテージ10、収容人員750）と七沢自然教室（収容人員400）弁天の森キャンプ場（収容人員216）があるものの、厚木市エコ・レク構想策定に当たって行われた調査結果を見ると、豊かな自然を求めて、本市を訪れる観光客の中には、手軽に自然とふれあいながら、楽しめる施設が少ないとの声もある。

既存資源の有効活用による自然環境体験型学習を取り入れるとともに、見る観光から参加する観光に対応した「個性ある地域振興」により本市の新たな観光ポイントの構築が求められている。

(2) 地域の特徴

ア 自然が豊富で美しい里山地域

七沢地区は観光資源の宝庫である。

ブナやモミの自然林、谷太郎川の清流、緑に抱かれた美しい滝「白滝」がある。

区域内には、県立自然保護センター、七沢自然教室、弁天の森キャンプ場など自然と施設に恵まれて、訪れる人も多い。

本地区へ来る人たちは、若い人のグループは少なく、圧倒的に中高年齢層が多い。

イ 魅力的な地域

(ア) 動植物

区域内には、天然記念物であるカモシカや神奈川県内では10頭前後といわれているツキノワグマが大山に生息している。

また、国蝶であるオオムラサキや、谷太郎沢や七沢の沢には特徴のある泣き声のカジカガエルが生息している。春先にはシュンラン、5月から6月にかけてキンラン、ギンランなどのマニア向けの山野草、6月から夏にかけては、ハクウンランやコクランなどのラン科植物が切れ目なく咲き誇っている。また、絶滅が危惧されているカタクリの自生箇所はインパクトのある観光資源でもある。

標高650m付近から800m付近にかけてモミ林があり、唐沢峠付近のモミ林は、樹高の測定が不可能であるが幹周は大人が2～3人でも抱えきれないほどの大木となって壮観な姿を見せる。ブナ林は、標高900m付近から大山山頂(1,251.7m)にかけて分布している。

(イ) 歴史・文化

A 小野神社

愛甲郡の総鎮守として崇敬される延喜式内の古社で閑香明神ともいう。

一帯は小野の里といい、古事記の「さかむのおぬ」(相模の小野)の地で

日本武尊が野火の難に遭ったところといわれている。

B 小町伝説

室町時代中期、諸国の民情を調べていた道興^{どうこうじゅうご}准后が記した紀行集「廻国雑記^{かいこくざっき}」の中に、「小野と云へる里はべり。小町が出生^はの地にて侍るとなむ。里人の語りはべれば疑はしけれど、色みえてうつろふと聞く古への、言葉の霧が小野の浅茅生」とあり、四～五百年前の昔から小野の里に数多くの小町伝説が伝えられてきた。

C 小町神社

鎌倉時代、源頼朝の側室丹後の局が頼朝の子を身ごもり、夫人政子の怒りにふれて処刑されようとしたときに、畠山重忠^{はたけやましげただ}（鎌倉初期の武将）がこの小野の里にあった川上酒匂^{かわかみさかわ}の屋敷に丹後の局をかくまった。局はこの苦しみから美しい黒髪が白髪になってしまい、小町神社に祈願したところ、もとの黒髪に戻ったと伝えられる。それ以来小町神社に参拝する女性は数多く、絵馬・黒髪などが奉納されている。

D 村中^{そんちゅうざん}山観音寺

奈良時代にさかのぼる日本三大薬師の一つで、本尊に馬頭観音菩薩を安置したのは、上杉定正の愛馬日影を祭ったことによると伝えられています。また、堂内には数少ない宇賀神^{うがじん}の石像（蛇形）も祭っています。

E 七沢石

七沢石はあまり硬くないので彫刻作業がしやすく、白や墓石などに使用されていた。七沢の観音寺にある手洗鉢には現在の長野県高遠町^{たかとうまち いしく}の石工八名の名前が刻まれており、これらの石工は八王子を経由してこの地に来て住みつき、七沢石の切出しをしたといわれています。石の需要が増加すると鐘ヶ岳のふもとの奥半谷、煤ヶ谷、日向の山々が開発されました。また、大正時代には約100人もの石工が作業をしていたそうです。

F 牡丹鍋

丹沢山塊には、現在でも野生の鹿や猪が多数生息しており、冬場には名物の猪鍋（牡丹鍋）が食卓を飾る。

猪鍋は、猪の肉を山菜とともに田舎味噌で煮たもので、味付けは各旅館等の秘伝である。

G だるま市

繭の神を祭る浅間山七沢神社の祭礼「六夜祭^{ろくやさい}」に合わせて、鐘ヶ嶽のふ

もとの路地に屋台が数店出店。「七転び八起き」を表す丸みが特徴の相州だるまが数百個並ぶ。

H ジャンボクリスマスリース

県立七沢森林公園を横切る市道森の里七沢線の地上17.5mに架かる歩行者専用道路「森のかけはし」は、橋長75.7m幅員3mのRC造で、壁面の仕上げに御影石を用いたアーチ型の優雅なデザインのシンボルゲートとなっており、これにジャンボ・クリスマスリースが掛けられ、冬の夜空に聖夜の雰囲気醸し出す。このリースは地元商店会の玉川商栄会が9年前から実施しているもので、地域商業の発展と観光の活性化を図るのがねらい。リースの大きさは直径7メートル。

ウ 住民の協力意識の高さ

本地区では、次のようなボランティアにより、魅力的な里山づくりの取り組みが行われている。

- (ア) 七沢里山づくりの会
- (イ) かながわエコリーダー会による観察会
- (ウ) 七沢森林公園雑木林ファン倶楽部
- (エ) 広沢寺の岩場を守る会
- (オ) 厚木観光ボランティアガイド協会

(3) 現状と課題

ア 自然の荒廃の進展

荒れている自然の整備を行うため、一部の地元の人々によるボランティアでの森林整備の芽生えが見える。

今後は、地域の貴重な自然資源を保全し、有効活用を図るための本格的な仕組みづくりが望まれる。

イ 地域文化の活用

本地区には、地域の歴史に培われたさまざまな文化が受け継がれているが、貴重な地域文化の活用が十分に行われていない。

今後は、本地区の地域文化の発掘と評価、及び活用を行っていくことが重要である。

ウ 個性的な特産品や料理の開発

豊かな自然を持つ観光地であり、地域の資源に恵まれているものの、それを生かした魅力的な特産品や郷土料理が不足している。

特色ある文化や農林産物などの地域資源を生かした特産品や郷土料理の開発が必要である。

エ 観光関係者の協力体制

(ア) 地元

相対的に協力的であるが、資金の投入については厳しい面があって、観光客の増加と比例した投資しか見込めないことから、初期段階においては、投資を誰が行うかが課題となる。

(イ) 企業

シャトルバス、ロープウェイについては、多少の関心を示しているものの、初期投資について、観光客の導入についての見込みが明確に立たないと難しい面がある。

(ウ) 行政

シャトルバス及びロープウェイ事業者に対するコーディネートが最大の課題となっている。併せてふるさと食文化村・ふるさと自然文化村については、自然環境学習拠点の基幹的な整備に対する投資のあり方が課題である。

オ 観光客数の減少

本地区には一時約58万人の入込客があったが、現在は約40万人に減少している。課題として、ハイキングコースや身近な動植物を楽しむことができる施設の未整備があげられる。また、レジャー施設としての整備が立ち遅れていることにより、大山山頂から気軽に湘南の海や横浜、新宿副都心の夜景を楽しむ仕組みづくりが必要である。

キ 自然と共存するエコツーリズムの理念を生かした観光

首都圏近郊という好立地を生かしたエコツーリズムの理念を生かしたバリアフリーのエコツーリズムを視野に入れた計画の立案を進める必要がある。

(4) 資源の活用と効果

区域が有する自然や文化などの資源を有効に活用するには、来訪者のニーズを的確に捉えるとともに、資源の価値を創出し、高めていきながら、さまざまなサービスを提供することが必要である。そのためには、自然体験学習のメニューと場の提供、併せて、魅力的な観光イベントの実施などを継続することが求められる。また、これらの取組に当たり、地域の団体・グループ・個人の連携を密にして進めることにより、その効果として、にぎわいの創出と地域経済の活性化に結びつけることが重要である。

ア 人々の価値観やニーズの変化に対応した観光振興

豊かな自然や文化を楽しみに来訪する中高年齢層、特に女性を主な顧客と捉え、自然を大切に作る姿勢を前提としながら、自然と文化を満喫でき、観光客の属性やニーズに応じた適切なサービスを提供していくことが必要である。

イ 地域資源の保全と活用によるエコツーリズムと観光の振興

地区の誇るべき観光資源は、豊かな自然と里山の景観、歴史のある神社、そして豊かで個性的な生活文化である。

地域の資源の価値を高める。(民話や伝承を活用したイベント)

資源を復活させて新たな価値を創出する。(棚田、ホタルの里)

資源の使い方を変えて新たな価値を創出する。(健康料理、眺望・夜景)

資源を組み合わせる新たな価値を創出する。(体験ツーリズム)

ウ パートナーシップによる地域振興の推進

貴重な観光資源を保全し活用する取り組みをこれまで以上進めるためには、地域のさまざまな団体・グループ・個人の参加による連携はもとより、自然体験学習と観光との両面の連携を図ることも重要である。

【目標】

(1) ふるさと食文化村

ふるさと食文化村では、猪鍋や七沢御膳（開発中）などの郷土料理や地域農産物を原材料とした地域食文化を体験できる施設等を整備するとともに、有害鳥獣対策農産物の栽培を始め、地元生産の安全・安心な農産物や特産品を消費者や観光客に販売する。

また、旅館や飲食店では地元の農産物を使った料理を提供することはもとより、

魅力と癒しのある飲食個店を誘致するなど、併せて地域の活性化を図っていく。
本物を安価に楽しく提供するコンセプトの実現を図る。

(2) ふるさと自然文化村

多様な機能を有する里山において、人とのかかわりを一層強固にするメニューを揃え、多くの人々に身近な自然とふれあう場所を提供し、里山での生活文化を体験してもらうと同時に、地球温暖化対策について学習してもらうことのできる環境保全活動拠点の整備充実に努める。

メニュー

- ・郷土の優れた自然環境を訪ね歩く「自然観察会里山を歩く」
- ・親子参加で生命の不思議を体験する「親子自然教室あつぎ自然探検」
- ・教育活動の受入支援と自然とのふれあいを深める自然環境活用事業
- ・希少動物の調査、観察などを行う「希少動植物保護事業」
- ・モデル地域に放虫して鳴く虫を復活させる「あつぎの鳴く虫復活事業」
- ・鳥獣類や昆虫などと共生できる里山を作る「里山リストラクション事業」
- ・集団宿泊生活、体験学習を通して学習機会を提供する「七沢自然教室運営事業」

(3) バリアフリーのエコツーリズム

学芸員等専門家を配置し地域に芽生えている学習ボランティアなどを巻き込みながら、首都圏近郊において身近な自然の大切さを実感できる新しいバリアフリーのエコツーリズムを実現する。

そのための手段として、シャトルバス、ロープウェイを活用する。

ア シャトルバス

誰もが皆、自然の植生や野鳥などの観察を楽しみ森の香り高い溪流の水辺まで到達できるよう、林道への一般車の乗り入れを、年間を通して禁止し、車椅子での乗車も可能な環境にやさしい圧縮天然ガス自動車（CNG）による環境にやさしいシャトルバスの運行を行う。

イ ロープウェイ

シャトルバスとの連携により眺望豊かな大山山頂（標高1251.7m）までのバリアフリーが可能となる。麓のふるさと食文化村や、ふるさと自然文化村における自然環境学習を補完することで、学習領域の拡大につなげる。

今後、少子高齢社会において、老若男女の誰もがバリアフリーで、大山山頂までのエコツーリズムを楽しみ、身近な動植物を観察するとともに豊かな眺望と東京湾一帯の夜景を楽しむことができる。

ウ 気軽なハイキング

(ア) ハイキングコースの整備

- ・ 標識の整備

見やすく、分かりやすく、安全に配慮した標識の設置

- ・ 階段部分の改良

踏みしろ、蹴上げ幅など、高齢者に配慮したバリアフリーの階段を設置し、基準を更に緩和した歩きやすいハイキングコースの整備を進める。

(イ) 1時間未満コースの新設

気軽に自然の中を歩くことを楽しめる所要時間 1 時間未満のハイキングコースを新設し、案内標識の整備を同時に進める。

- ・ 文化コース

小野小町と日本武尊巡りコース

- ・ 植物観察コース

希少植物を守る丹沢の花巡りコース

- ・ 溪流コース

谷太郎川沿いを往く美しき清流コース

幻の滝を探す白滝コース

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

自然学習拠点整備による地域再生計画の実施により、ふるさと食文化村及びふるさと自然文化村の整備並びにシャトルバス、ロープウェイの運行等によるバリアフリーのエコツーリズムの実現が図られ、市内外からの来訪者が増加することが予想される。特に、本市は首都圏から最も近い観光地であることから、容易な来訪が可能であり、来訪者増加の潜在的な能力を有する立地条件にあるといえる。

また、豊富な体験学習メニューの設定や、常に鮮度のあるイベント等を実施することにより、リピーターの確保も十分に可能であるといえる。

これらのことから、本市の年間観光入込客数も現在の年間2,300,000万人から、過去最高を記録した平成4年度を超える年間3,000,000人（一日あたり約8,200人）を数えることが予想される。宿泊客については、観光入込客数の増加とともに、大山山頂を経由する回遊性のある観光コースの設定が可能となることから、区域内の温泉施設（収容人員750人）を中心に、現在の年間66,000人から100,000人に増加すると予想される。このように来訪者、宿泊者の増加により、観光施設、宿泊業はもとより、飲食業、小売商業等への顕著な経済的効果が期待でき、地域経済の活性化と新たな需要の創出が図られる。

また、市全域についても、市の玄関ともいえる小田急線本厚木駅の一日当たりの乗降客数が現在の143,000人から144,000人に増加し、年間360,000人の乗降客を新たに確保することが想定され、中心市街地の商業の活性化に、効果が波及されることが考えられる。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

- 208004 案内標識等サイン類の様式の統一
- 212002 道路占用許可弾力化（オープンカフェ等）
- 212015 「地域再生支援チーム」の設置
- 230007 案内標識に関するガイドラインの策定
- 213003 エコハウス整備事業の実施
- 213004 エコツーリズムに対する支援

7 構造改革特区の規制特例措置により実施する取組その他の関連する事業

(1) その他の関連する事業(順不同)

ア 七沢里山づくりの会

緑と清水に恵まれた七沢地区において、里山が産出する資源の有効活用を図り、里山本来の機能を広く市民ボランティア活動により復活させ、豊かな自然環境を取り戻すことを目的としている。

「里山リストラクション事業」や「里山マルチライブプラン事業」を実施している。

イ かながわエコリーダー会による観察会

神奈川県公園指導員・神奈川県自然観察指導員・神奈川県環境学習リーダーが中心となって日帰りプランから、七沢自然教室の宿泊を取り入れた自然観察会を実施している。

ウ 七沢森林公園雑木林ファン倶楽部

里山の保護に取り組み、毎月第三日曜日を活動日として30～50人が集まり、午前中が草刈りや落ち葉かき、午後は薪を使ってバームクーヘン、ピザやパンなどの料理を作る。

里山の手入れをし、薪を燃料にすることで人と里山の関係を伝える活動を行っている。

エ 広沢寺の岩場を守る会

地区内には、クライマーたちから人気を集め、県内外から多くの愛好者が訪れる滑岩がある。近年、技を磨くクライマーの中に中高年の女性の姿も多く見

られる。

このため、専門家の指導によるフリークライミングスクールを開催し、滑岩でのクライミングの体験が行われている。会では、ゴミの持ち帰りやクライマーへの車両進入の自粛を行っているほか、地元公民館主催のクライミング教室への講師派遣を行っている。

オ 厚木観光ボランティアガイド協会

本市を訪れる観光客に、市の自然や歴史・文化などを広く紹介し、地域の発展に寄与するため市民有志が集まって運営されている。主な活動をハイキング型、史跡探訪型、行事支援型などに分け、観光資源の発掘・資料作成を行なうほか、学習成果を生かした観光や史跡ガイドの実施、関係団体が主催するイベントへの協力を主な事業としている。

- 8 その他地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項
特になし

別紙

1 支援措置の番号及び名称

208004 案内標識等サイン類の様式の統一

2 支援措置を受けようとする者

厚木市

3 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

首都圏近郊において、身近な自然の大切さを実感できるバリアフリーのエコツーリズムを実現させるための方策として、気軽なハイキングや、ウォークラリーを楽しみ、来訪者に満足感や充実感を味わっていただくための取組を進めたい。

誰もが自然の中を歩くことを、気軽に安心して楽しめるように、既存ハイキングコースの整備及び所要時間1時間未満コースの新設や、ウォークラリーコースの設定に当たって、見やすく、分かりやすく、安全に配慮した案内標識等の設置が必要となる。

本支援措置を受け、設置する案内標識等は、行政区域が判別できるようにするための市のロゴマークや、事故等への対応のための緊急連絡先を表示した統一的なオリジナル性あるものとしたい。

1 支援措置の番号及び名称

212002 道路占用許可弾力化（オープンカフェ等）

2 支援措置を受けようとする者

民間事業者（環境ボランティア団体）

3 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本計画区域内の誇るべき観光資源として、豊かな自然と美しい里山の景観、歴史ある神社等があげられる。この恵まれた地域資源を活用して観光の振興を図ることを目的として、その資源の価値を高めたり、資源を組み合わせる新たな価値を創出したりするためには、より多くの参加者を得ることができるよう魅力的イベントの継続的な開催が必要である。

計画区域内は、幹線道路周辺においても、豊かな自然があふれ、容易にアクセスすることができるため、相当数の参加者が予想される反面、ウォークラリーなど行動範囲が広範囲になるイベントとの場合には、参加者の安全を確保することが重要である。

また、このような観光資源を活用する取組をこれまで以上進めるためには、地域のさまざまな団体・グループ・事業者との協力、連携が不可欠でありことから、にぎわいの創出と地域経済の活性化のために、大規模なイベント開催時や休日において、計画区域内の必要と思われる道路を占有することにより、民間事業者による出店範囲を広げることが、より強い連携を図る上において重要である。

事業の実施及び道路占用許可申請に当たっては、国土交通省の作成するガイドラインを参考にした取組を進めます。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

230007 案内標識に関するガイドラインの策定

2 支援措置を受けようとする者

厚木市

3 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

首都圏に最も近い観光地の使命として、必要である。

そのため、シャトルバス、ロープウェイ、ハイキングコース等の観光施設周辺のみならず、市内全域において、道路、河川、交通機関等に設置する案内標識等について、統一的な整備を進めたい。

また、海外友好都市との交流や外国籍市民への対応を始め、外国人観光客受入れへの対応として、分かりやすい案内標識の設置も必要である。

本支援措置である「観光活性化標識ガイドライン」に基づき、気軽に安心して自然を楽しむことができるよう、すべての人に優しく、分かりやすい案内標識等の設置を進めたい。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212015 「地域再生支援チーム」の設置

2 支援措置を受けようとする者

厚木市

3 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

事業の実施に当たり、円滑な推進に不可欠な関係省庁等との連携を図るため、地域再生支援チームを積極的に活用する。

首都圏に最も近い観光地の使命として、身近な自然の大切さを実感できるエコツーリズムの実現に向けたための方策として、環境に配慮しながらバリアフリー化を図るために、環境にやさしい圧縮天然ガス自動車（CNG）によるシャトルバスと大山山頂までのバリアフリーを可能とするロープウェイの運行が必要である。

シャトルバスとロープウェイの運行に当たっては、関連施設整備のために必要となる保安林の立木の伐採許可（農林水産省）や、国定公園内における施設設置許可（環境省）、道路拡張工事に伴う砂防区域内における土地の制限に係る許可（国土交通省）を受けることが不可欠である。また、シャトルバス運行区間においては、一般車両の通行禁止措置（警察庁）も必要となってくる。

そこで、事業実施のために必要不可欠であるこれらの許可等について、複数の関係省庁により構成される「地域再生支援チーム」を活用して、円滑な施策の展開を図っていきたい。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

213003 エコハウス整備事業の実施

2 支援措置を受けようとする者

厚木市

3 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

「ふるさと自然文化村」のセンター施設は、その体験、学習を通して、環境について学習することを目的とする「環境体験学習推進施設」である。

この施設は、地球温暖化対策についての学習・普及啓発の場というエコハウス整備事業と目的を同一にするものである。

センター施設建設に当たっては、太陽光発電、風力発電、間伐材の利用、高効率断熱材、断熱サッシ（複層ガラス等）、透水性舗装、雨水貯水タンク等の環境に配慮した技術の導入を積極的に図り、エネルギー起源の二酸化炭素排出抑制対策技術を複数取り入れて、豊かな自然に恵まれた地域特性を踏まえた様々な代エネ・省エネ技術の見学・体験が可能な施設として整備を図ります。

同センター施設を、神奈川県地球温暖化防止活動推進センターの支所として位置付け、自然の恵みを感じながら、地球温暖化対策について体験・学習する施設としてエコハウス整備事業を実施します。

1 支援措置の番号及び名称

213004 エコツーリズムに対する支援

2 支援措置を受けようとする者

厚木市

3 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

豊かな緑と清流・野生生物が生息する本市のエコロジーエリアにおいて、本地域再生計画を切っ掛けとして「ほんもの」の自然を手軽に体験できるエコツーリズムによる推進体制を強化し、環境省が作成するエコツアー推進マニュアルや各種情報支援措置等を参考にしつつ、環境保護施設を始め、利便施設の整備や専門家の育成を図りながら、鳥獣対策農作物等地場産品の販売や食材などを用いる「ふるさと食文化村」自ら体験し「行動力」と「知的探求心」を満たす「ふるさと自然文化村」学芸員等専門家を配し「やまなみロープウェイ」「シャトルバス」を活用したバリアフリーのエコツーリズムにより、本市の地域資源を最大限生かしながら身近に自然との関わりを楽しむことができる首都圏有数のエコツーリズムを実現する。

人々の価値観や余暇ニーズ、余暇活動については、物の豊かさより心の豊かさを重視、自然への関心の高さ、レジャーや余暇における40・50代の高い不満など、変化を続けている。

このような状況を踏まえ、供給者側から需要者側の発想に切り替え、観光客が望むサービスを提供し、観光客の満足度を高める努力が必要である。

計画区域には、誇るべき観光資源として、豊かな自然と里山の景観、歴史のある寺社、そして豊かで個性的な生活文化が存在する。

この地域資源の保全と活用による観光の振興を図るため、遊休農地等を都市住民への体験農業の場としたり、地域の様々な生活文化や自然を体験する「体験ツーリズム」を実施したりするなど、資源を有効に活用して、新たな価値を創出する方策が求められている。

本計画では、エコツーリズム推進協議会の設置、資源調査、ルール（基本計画）策定、プログラムの開発、人材活用と育成などを積極的に実施していくことにより、地域が一体となった取組を進めるとともに事業エコツーリズムの定着を図っていききたい。